



## 第14号誌

2022年 [制作・発行]

- 行田市在宅医療・介護連携推進協議会
- 行田市高齢者福祉課地域包括ケアグループ

TEL.048-556-1111  
(内線 338・278)

**ご自由にお取り下さい**

行田人(ぎょうだびと)は、行田市の「医療と介護の連携」を推進・紹介し、市民のみなさんの生活をサポートする広報誌です。

## 在宅医療・介護連携推進事業

医療と介護が連携して、地域住民の療養や生活を支援する取り組みを行っています。

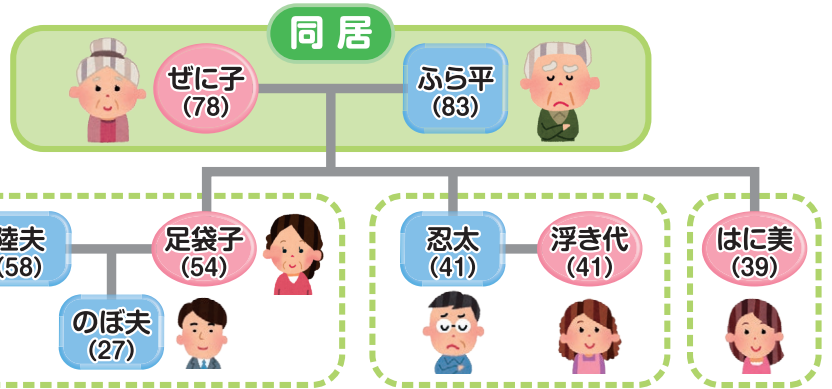
## 30年後(2050年)のふら平とぜに子

ぜに子  
(78)

体の問題はない。軽いもの忘れあり。大きな病気はなく、ふら平の身の回りの世話をしている。60才から始めたお花の教室を自宅で開いている。

脳梗塞の後遺症、肺気腫。78才の時に軽い脳梗塞を患い、進行性の肺がんもある。肺の病気のため、動くとき息が切れ、寝たり起きたり。「わしゃ家で死にたい」と言っている。

ふら平  
(83)



## 第12弾! ふら平さん サポート大作戦!

行田市在住のふら平さん一家の30年後。だいぶ体が不自由になってきているふら平さんを支えるために、医療・介護の専門職がどのように関わっていくのかをご紹介します。



「アルツハイマー型認知症」と診断されたぜに子さん。認知症の特徴的な症状である「見当識障害」が日常的に見られるようになり、家族もどう対応してよいか心配しているようです。

最近、お母さんに「今日は何曜日だっけ?」って聞かれることが多くなったの。この間なんか、お母さんと近所に散歩に行ったんだけど、途中で「帰り道がわからないって」言うのよ。

認知症になると「曜日の感覚」や「今いる場所がわからなくなる」こともあるようだね。

長女 足袋子

長男 忍太

認知症の中核的な症状の一つである「見当識障害」について次のページで紹介します。



# 認知症の 中核症状 **見当識障害**

## こんな時どうすれば良いの？

今回は認知症の見当識障害で起こりやすい3つの特徴をご紹介します。

**Check!** 見当識障害には以下のような症状があります。

**1**

**時間や季節が  
分からなくなる**

- 遅刻が増える
- 外出の準備が出来ない
- 季節に合った服装が選べない



**2**

**場所が  
分からなくなる**

- 外出先から家に帰れなくなる
- 自分のいる場所が認識できない
- 家の中のトイレの場所、自分の部屋が分からなくなる

**3**

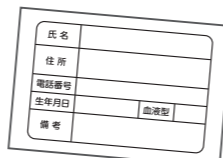

**人が  
分からなくなる**

- 家族や親戚、友人などの認識が出来ない
- 実子を孫と認識するなど相手と自分の関係を間違える



**症状への対策**

- 衣替えを行い、季節に合った服装に気を配る
- 普段から身に付けるものに住所や名前を記入する
- 自宅でも場所が分かるように、トイレ、お風呂、寝室などプレートを貼り目印を付ける

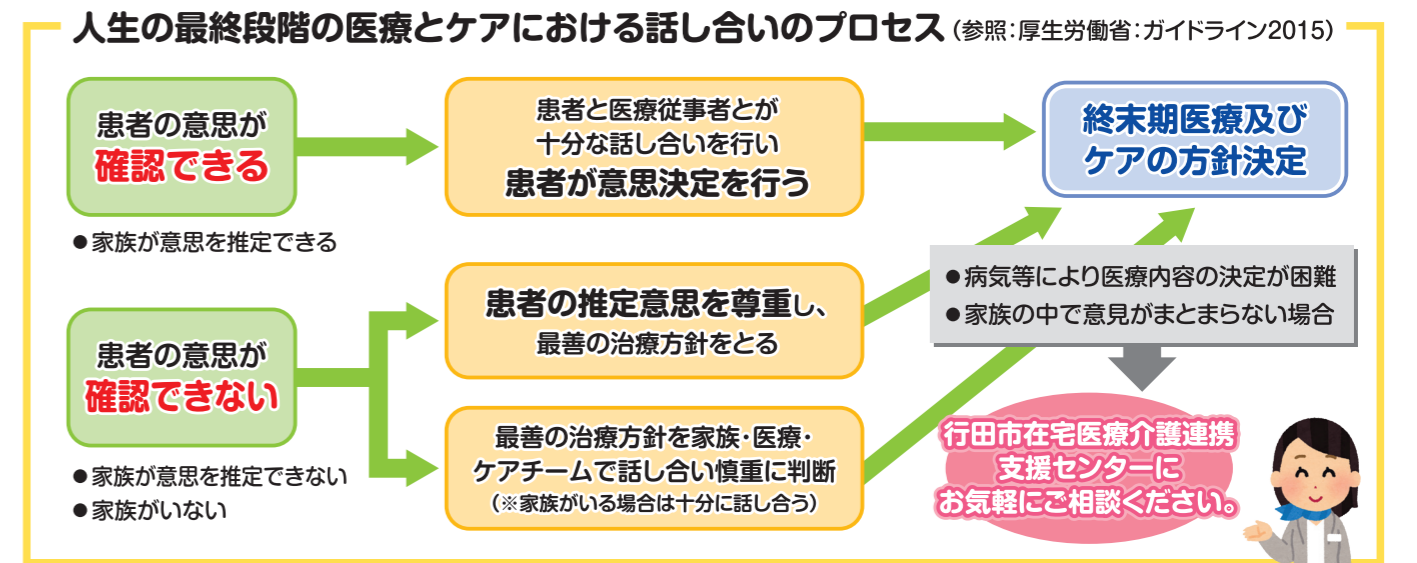
見当識障害も周りのサポートが大切になります。同居の方や家族だけでなく、周囲の地域の人や利用できる介護サービス(デイサービス、訪問介護など)を有効的に利用する事により介護者の負担を軽減し、一人ではなくチームで支える体制の構築に繋がります。

認知症が進むと治療を要する機会が増えますが、希望する治療を本人が伝えられない事も多く、そのために**ACP(アドバンスケアプランニング:人生会議)**が注目されています。

### 手順

- STEP 1** 本人と家族に現在の認知症の**ステージ**を確認する。末期認知症は死に至ることを説明する。
- STEP 2** 治療として ①緩和治療のみ ②延命治療(人工呼吸器など) ③その中間(点滴など)があることを伝える。
- STEP 3** 本人の希望する医療介護の方針を話し合って決める。本人が決められない場合は本人が希望すると思われる方針や、**本人の最善の利益を考慮した方針を家族が決定し、医療者が支援する。**
- STEP 4** 認知症のステージが進行した場合、状況に応じて再検討する。

ステージ	1 正常	2 年相応	3 境界状態	4 軽度	5 中等度	6 やや高度	7 高度
特徴	主観的にも客観的にも機能低下は認められない。	物の置忘れや物忘れが起る。	職場で複雑な仕事ができない。	金銭の管理、買い物など日常生活にも支障をきたす。	TPOに合わせた適切な洋服を選んで着ることが出来ない。着替えや入浴を嫌がる。	● 排尿・流し忘れ、失敗する。尿・便失禁など。 ● 着衣・入浴…一人では不可能。	● 言語機能…話し言葉が6個以下に。「はい」等ただ一つの単語しか理解できない。 ● 身体機能…歩行や座位の保持が出来ない。



これからの人生をどう過ごすか考えてみませんか？

# わたしの人生ファイル

「わたしの人生ファイル」は、たとえ認知症になっても、体が不自由になっても、最期まで自分らしく住み慣れた地域で暮らし続けるために、**家族や身近な支援者に自分のことを知ってもらうためのファイル**です。

「わたしの人生ファイル」を手にしたら、元気なうちに「これからの私」を考えて記入してみましょう。



## ①元気なうちに…編

### \*「これからの私」のページ

自分が認知症になって自分の意思を伝えることができなくなったり、体が不自由になったときにどのような支援をしてもらいたいかを記録しておくページです。

「歩けなくなったら…」 「トイレに行けなくなったら…」 「口から食べられなくなったら…」 「人生の最終段階をどこで過ごしたいか…」 「その際にどのような医療を受けたいか…」 等、元気なうちから考えておくことによって、いざというときに慌てずすみずみます。

現在、行田市在宅医療・介護連携推進協議会では公民館での「ACP普及促進事業」において、「これからの私」を考えていただく取り組みを推進しています。



**ぜに子**

ACP講座で「わたしの人生ファイル」をもらってきたの。  
おとうさんの分ももらってきたから、一緒に書きましょう。

**ふら平**

わしは、できるだけ自分のことは自分でして、  
出来れば最期までこの家で暮らしたいなあ。



**足袋子**

いつまでも二人で元気に過ごしてもらえるのが一番。でも、  
いざというときにどうしたいか、私も知っておきたいわ。

「行田人(ぎょうだびと)」は、市内医療機関、歯科医院、薬局、介護事業所、市役所窓口等で配布しております。  
ご希望の方は各機関の窓口にてお申し出ください。

